

2010.5.1

生誕200年 同じ年に生まれた二人の天才

ショパンとシューマン

第3回

プログラム

今年生誕200年を迎えた1810年生まれの二人の天才作曲家、ショパンとシューマンを特集する第3回目です。幻想即興曲はショパンの死後発見された曲ですが、左手と右手のリズムが異なり交錯しながら幻想的な世界を奏でる名曲。ソナタの第2番は29歳の時に完成されましたが、第3楽章だけはその2年程前に出来ており、葬送行進曲として有名でな作品です。アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズは、優雅な序奏のあとにリズム性を備えた技巧的なポロネーズが続きます。近年はピアノ独奏曲として演奏されることが多いのですが、今日はオリジナルの管弦楽伴奏でお聴きいただきます。

シューマンのチェロ協奏曲は、チェロの特性を活かした抒情的で美しく流れるようなロマン性が味わい深いこのジャンルの傑作のひとつ。謝肉祭は初期のピアノの名作で、ロマンティックな詩情と輝かしい色彩感が魅力です。交響曲第2番は3番目に書かれた交響曲で、一見地味に感じられますが、推進力を持ったリズムと沸き上がって来るような音の流動感が素晴らしく、シューマンの名曲のひとつです。ショパンとシューマン、また新たな魅力を発見して頂ければと思います。

フレデリック・ショパン (1810~1849):

幻想即興曲 *op.66*

タチアーナ・シエバノワ (ピアノ)

(2005.11.20 東京オペラシティ・コンサートホールでのLive)

ピアノ・ソナタ第2番変ロ短調 *op.35* ~ 第1楽章、第3楽章、第4楽章

ウラディーミル・アシユケナージ (ピアノ)

(1981.8.23 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ変ホ長調 *op.22*

クリスティアン・ツイメルマン (ピアノ)

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1982.5.8 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ロベルト・シューマン (1810~1856):

チェロ協奏曲イ短調 *op.129*

ミッシェル・マイスキー (チェロ)

レナード・パーンスタイン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1985.11.3 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

謝肉祭 *op.9* ~ 抜粋

アルトウーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ (ピアノ)

(1973.10.20 NHKホールでのLive)

交響曲第2番ハ長調 *op.61* ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から、第4楽章

リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1995.10.8 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)